

令和5年度花巻市石鳥谷地域協議会第1回会議 会議録

【日 時】 令和5年11月20日（月）午前10時～午前11時45分

【場 所】 花巻市役所石鳥谷総合支所 3階 大会議室

【出席者】 出席委員：9名

藤原けい子委員、伊藤浩司委員、菅原教雄委員、八重樫康治委員、
伊藤成子委員、大竹佐久子委員、高橋公男委員、菅原康之委員、
板垣武美委員

欠席委員：6名

浅沼総委員、菅原紳委員、福山慎一委員、藤舘茂委員、
鎌田愛子委員、晴山淳子委員

市側出席者：11名

説明者

岩間総合政策部長、富澤秘書政策課長兼総合計画策定室長、
村田総合計画策定室次長、川村総合計画策定室主査、
菅野教育部長、佐藤副館長、小原学芸係長

事務局（石鳥谷総合支所）

菅原総合支所長、佐藤地域振興課長、八重樫市民サービス課長、
小原地域支援監、伊藤地域振興課長補佐、新田地域づくり係上席主査

【説明事項】

- (1) 第2次花巻市まちづくり総合計画長期ビジョン（素案）について
 - (2) 石鳥谷歴史民俗資料館の展示資料の移設について
- 資料により説明、各委員が質問、意見を述べた。

【傍 聴】 会議を傍聴した者 0人

※ 会議での発言等は別紙顛末のとおり

○辞令交付

開会に先立ち、藤原けい子委員へ、辞令書を交付した。

- 1 開会
- 2 あいさつ
(菅原会長)

令和5年度第1回会議にご出席いただき感謝申し上げます。協議会運営にご協力をよろしくお願いいたします。

第2次花巻市まちづくり総合計画については本年3月17日、計画策定に係る取組状況と骨子案について説明があったところだが、今回は長期ビジョン素案について説明し、委員各位からのご意見をいただき、また石鳥谷歴史民俗資料館の展示資料の移設について、説明をいただくこととしているので、よろしくお願い申し上げます。改めて年明けに諮問・答申を予定しているところである。

- 3 説明

(1) 第2次花巻市まちづくり総合計画長期ビジョン(素案)について

《説明者紹介》

(佐藤課長)

本日は説明であり、統一した意思表示を求めるものではない。

○担当課説明

富澤秘書政策課長兼総合計画策定室長が、資料No. 1～3「第2次花巻市まちづくり総合計画長期ビジョン(素案)」に基づき説明した。

(菅原会長)

限られた時間で効率よくご発言いただきたいので、序論から第5章までを区切ってご意見をいただきたい。

【序論】

(板垣武美委員)

序論においてSDGsとの関係という説明があるが、それはそれとして常々思っているが、総合戦略との関係性はどのように整理されているのかよくわからない。全部目を通したがこれについて言及されている部分がない。

(富澤室長)

総合戦略と総合計画との相関についてとのことだが、市においてはまず総合計画が最上位に位置づけられる計画。まち・ひと・しごと総合戦略においては、主に人口減少対策に係る戦略とのことと総合計画の中から抽出した格好となっている。当市においては、総合計画と総合戦略とは別に定めているもの。

(板垣武美委員)

そういった内容を総合計画の中に記述する必要があるのではないか。ただしこれは意見である。また、SDGsと総合計画との関連に1ページ費やしている。花巻市のトータルシステム個別の計画との関係についても書いていただきたいと思った。

(富澤室長)

この総合計画と個別の計画の関連について。長期ビジョンの中では明記していないが、前期アクションプランの中で記載していく予定としているのでご理解願いたい。

【第1章】

※質疑等の発言なし

【第2章】

(八重樫康治委員)

経常収支比率、令和3年度に大きく落ち込んでいるがこれはどういう理由で落ち込んだものか。

(岩間部長)

令和3年度、それからその前の年度について大幅に改善しているということが読み取れるが、これは、ふるさと納税が好調だったということで、その寄附金を経常経費に充当したことによるもの。

(伊藤浩司委員)

23P 人口見通しについて、市の目標が令和47年度で5万8千人。この増加分というのは、流入を促すことなのか、流出を食い止めるのか、出生率を上げるのか、どういう見込みで計算しているのか。また重点施策プロジェクトとどうリンクしているのか、教えていただきたい。

(富澤室長)

上の赤い実線が花巻市の将来人口目標。人口減少対策に取り組んでいった場合にこうありたいという目標値。真ん中の青い実線が成行値。取り組まない場合の数値。緑の破線が社人研の国勢調査をベースにして公表されている人口推計。上の2つの数値は住民基本台帳に基づいているため国勢調査より大きい数値で出るもの。

(伊藤浩司委員)

グラフの見方は大体わかったが、どの施策を重点的にやっていくのか、それとも先ほど申し上げた3点の政策を3等分ずつやっていくのか。そして重点施策推進プロジェクトとリンクしているのかということを知りたい。

(富澤室長)

人口減少をゆるやかにするという一方で、転入者の支援について今後取り組んでまいりたい。だからといって出生数が減るのを見逃すのではなくて、子ども・子育て応援プロジェクトで取り組んでいく。花巻で暮らそうプロジェクトと併せて、どちらも重点的に取り組んでまいりたいと思っている。

(板垣武美委員)

自治体DXの推進とある。主にその狙いは業務の省力化・効率化かとは思いますが、これは単なるデジタル化。新しい価値を創出するのがDXと認識しているが、市そのあたりの考え方を聞かせたい。

(岩間部長)

まずは、市役所内の業務の効率化とそれに伴う市民の皆さんの手続きの簡略化、をやっていく。DXについては理念をまとめた計画は持っているが、現在、具体的な実施計画を策定しようと進めているところ。国の制度も活用して、市民の皆様が利便性を感じられる取組についてもやっていこうと考えている。

(板垣武美委員)

いま部長がおっしゃられたのはデジタルライゼーションのことかと思う。専門部署や専門官がいるはずなのでよくご相談して長期ビジョンに記載いただいたほうがよろしいと思う。

【第3章】

(板垣武美委員)

31Pにキーワードの分析がなされているが、これはAIなどを活用したデータマイニングか。

(村田次長)

ご指摘のとおりいわゆるテキストマイニングである、頻出するキーワードを単語の形で抽出しているもの。アンケートなどでもいただいている部分も抽出しており、それを参考に将来都市像案を検討した。

(板垣武美委員)

最終的には人間が作ったということによろしいか。

将来都市像を改定するわけだが、今の将来都市像は正直長くて覚えられなかったが、個人的にいつも気になるのが「イーハトーブ」が入ってくる。これは「ドリームランド」であるということで非現実的だなと思う。「イーハトーブ」を標榜するのであれば、何か総合計画全体を貫く部分があるのかと思うが、意外と宮沢賢治関連の記述がない。計画全体をもう少し洗練された文章で記述したらどうかと思ったが、「イーハトーブ」はどうしても使わなければならないのか。

(岩間部長)

まず実際にワークショップで将来都市像についてお伺いした際はこの単語の頻度が高かった。それから将来都市像を目にした際に「これが花巻市のものである」とイメージしてもらいやすい単語が必要ではないかということ。やはり将来目指したいところを考えたときに花巻市としては「イーハトーブ」という言葉を使わせていただきたいということ。この3点ではないかと思う。

(板垣武美委員)

「イーハトーブ花巻」でもいいかと思った。また、近隣の自治体の総合計画を見たときに「将来像」という単語を使っているところが多いが、「将来都市像」としている理由は何か？

(富澤室長)

現計画でも使用している表現であって、将来の「まち」の姿をイメージするものという表現である。

【第4章】

(八重樫康治委員)

P36 政策 1-1「農林業の振興」について。花巻は農業が基幹産業だという記述があるが、食料自給率という表現が見受けられない。日本のそれは現状世界から見ても低い状況。自分たちが将来安定的に食料を確保できるか不安定というところがある。安定した農業系統というのが大事になっていくのではと思う。2段落目「転作作物については」以下の記述については、生産性の上がらない方へシフトしている計画なのかと思う。花巻の地の利を生かした生産性の向上とか、そういったものについて記載をして、将来に備えるかたちで記載しておいたほうがいいのかという意見である。

それから P38「商工業の振興」について、利便性の高い商業地域の形成の中身について、どのように図られるのかということをお聞きしたい。

(村田次長)

特に近年においてはリノベーションなどで若い方々を中心に商店の出店などの動きもみられる。そういった面で空き店舗の活用などで店舗が増えることにより、買い物をする方にとっても利便性の高い商業地域の形成を目指し、また既存の大型の店舗についても従来どおりの利用ができ、買い物が不便にならないように利便性を維持していきたいという考え方。

(富澤室長)

農業生産に関わる点について。具体的なお話ということであればアクションプランに方策を記すことになるが、ご意見として頂戴する。

(高橋公男委員)

内容については異存がないが、最近有害鳥獣の被害がクローズアップされてきている。当市においても被害が近年多く発生するようになった。対策は総合計画の中には具体的には出てこないが、前期アクションプランの中で、市民の安全のために

それらをどこかに位置づけて将来的にどういう方向にもっていくかということを入れた方がいいのではないかと思う。これは意見である。

(富澤室長)

有害鳥獣の対策については現総合計画の中でも「農業生産の支援」という部分において具体的に触れている。今アクションプランについても並行して策定作業を進めているが、その中において位置づけることになろうと思う。

(大竹佐久子委員)

農林業の振興の部分について。高齢化や後継者層の流出について記載があるが具体的に何が問題かというところが見えてこない。言葉遊びをしているようにしか見えない。若者がなぜ農業をやらないのかという掘り下げをもう少ししてもいいのでは。行政は縦割りで、ゴールデンウィークの期間に若い人たちに水利の話をしたと思ってその期間は水が来ないという。中身の話がもう少しあってもいいのではないか。若者の農業離れという話で片づけるわけにはいかない。自然災害で農業が悪化されると、スマート農業に切り替えるとか、品種を変えるとか、行政の対応は場当たりのである。もう少し細やかな施策を取っていただきたい。あくまでも意見である。

(富澤室長)

ご意見として承る。一步踏み込んだ書き方については前期アクションプランで検討させていただきたい。

(伊藤浩司委員)

49p「福祉の充実」について。福祉というのは施策をとらえても成果が見えにくく難しいと思うが、前の書き方と同じではないかと思う。介護の担い手がなぜ増えないのかというところを考えてもらわなければ。コミュニティ単位での取り組みだけを一生懸命書いているようだが、同じことを毎回言っても変わらない。ICTを活用して民生委員の業務負担軽減なども書いているが、補助制度を立ち上げるとか、抜本的なことを考えるべきではないか。

(菅原教雄委員)

多岐にわたっての計画作成ご苦労様でした。

アクションプランについて。いま作成している状況だとお話があったが、前回のスケジュールをみると12月に案を決定するという予定。見直しということになると4年に1回なのか、アクションプランの策定スケジュールについてお聞きしたい。

(富澤室長)

以前に地域協議会で説明させていただいた際、長期ビジョンは今年の9月の議会に上程を予定し、その12月に策定を予定するということにしていた。予定していた市民参画に加えて、分野ごとの政策や重点施策推進プロジェクトについての意見を伺い、策定を行ってきたためにこの時期になったもの。この長期ビジョンに基づく前期アクションプランは、今年度内の策定を予定している。今回前期アクションプランを策定したうえで、毎年度ローリングという時点修正を加えて現計画と同様に計画を実行性あるものとしたいと考えている。

(菅原教雄委員)

ここからの議決では4月からの施行に間に合わないのではないかというのがひとつ。それから長期ビジョンは総論という形で、各論がこの下に隠れているのか。アクションプランが各論かなと思うが、もっと具体的な施策があって、かつ個別の施策や評価指標が必要だと思う。評価指標もアクションプランの中に組み込まれるのか。八重樫委員から農業の話があったが、具体的に何ヘクタールやるのか、そういうところがないといけないのではないか。

(富澤室長)

パブリックコメントの結果を受けて素案への反映を行い「案」としたうえで、年明けに改めて諮問・答申をいただきたい。その後に市議会への上程。現在、並行作業でアクションプランについても作業をしているが、あとに前期アクションプランの諮問をお願いしたい。アクションプランについては市議会の議決の案件としていない。成果指標については数値目標としては現計画でも長期ビジョンには位置づけていないが、アクションプランの中で目標値設定をして参りたい。

(八重樫康治委員)

61Pに「地域課題の解決」「中間組織」と連携という表現がある。若者世代とか女性の参画というのは組織にとって大きな課題。私はあくまでも中間支援組織は手段ではないかと思ってきたが、こういう形で表面に出して、「組織のありかたについて検討を進める」という検討レベル。私は常々もっと市の方で踏み込んで取り組んでほしいと思っている。場の提供に留まらず、「検討」でなくて具体的な取組について記載いただきたい。それから「市民が地域づくり活動を行うための環境づくり」とあるが、これはどういうことなのだろうと思う。表現を具体的に、将来につながるような表現にしていきたい。

(板垣武美委員)

今の八重樫委員の発言に関連する。当時の地域振興部で2か年にわたって地域自治に関する懇談会というのをやっている。そこで2年間議論した内容がどこにも反映されていないように見えるがそれはどうなっているのか。

(岩間部長)

その部分について踏まえたいうでの現部からの提案をとりまとめたものがこの長期ビジョン素案だが、改めて確認させていただきたい。

(板垣武美委員)

地域づくり分野については担当部と協議してみしてほしい。すべての分野の最終ページに「みんなで取り組みたいこと」という部分がある。いったい何を目的につけている部分なのかご説明いただきたい。

(村田次長)

現計画(長期ビジョン)においてはこういった項目はなく、中期プランに「市民」「企業」に期待される役割として掲げているもの。当然市の計画であるものの、関係するみなさんのご協力・取組は欠かせない。ただ役割という形では要請・押しつけという形に捉えられると本来意図するものではないので、「みんなで取り組みたいこと」と表現をしているもの。またこういった項目を作成するにあたっては県の県民計画に同様の記載があり参考としている。

(板垣武美委員)

私はこのページは必要ないと思っている。市民と意識を共有していくということであれば大事だと思うが、問題は市民の関心の低さ。先般行われた地域説明会は、石鳥谷については参加者2名。他の地域でもそう多くないと聞いている。市の市民参画政策の失敗である。そういう意味では記載は不十分。それから「企業(事業所・個人生産者を含む)」とあるが「個人事業主」がいいのではないかと。従業員という言葉にも違和感を覚える。正規も非正規も含むということであればいいが、ほかに何か表現がないか考えていただきたい。

それから長文の連続で読むのに苦労した。読みやすい文章というのはワンセンテンス60字前後と言われている。これは意見である。

【第5章】

(大竹佐久子委員)

「子ども・子育て応援プロジェクト」について。P73に学童クラブについて「民間事業者との連携による受入の拡充」とある。非常にいい取組だが、子育て支援員が少なかったり、十分な体制が整っていないところもある。民間のプロの方たちとの格差がないように留意していただきたい。

(大竹佐久子委員)

「花巻で暮らそうプロジェクト」について。P75に「リノベーション」「空き店舗活用」についての記載があり、移住についてはいろいろ聞くが、リノベーションに対して市民に大きくコマーシャルをしてもいいのでは。街の中で閉まっているところがあるとさみしい。目標を決めて、リノベーションについて市民の参画が得られる方法を検討いただきたい。

(富澤室長)

リノベーション等に取り組む際の支援の周知はあってしかるべきと思うが、民間の所有物である空き家物件について、市の方でどこまでお話しできるかは検討が必要。ご意見として承る。

(菅原会長)

以上で、次第3(1)第2次花巻市まちづくり総合計画長期ビジョン(素案)を終了します。

《説明者 総合政策部職員(4名)退室》

(2) 石鳥谷歴史民俗資料館の展示資料の移設について

《説明者紹介》

○担当課説明

佐藤花巻市博物館副館長が、資料に基づき説明した。

(菅原会長)

説明が終わりましたが、質問等ございましたらお願いします。

(板垣武美委員)

今回移設する資料館の部分について、耐震診断が行われていなかったとの説明であったが、資料3には「新耐震基準を満たしていない構造」となっている。耐震診断を行わなくても耐震基準が満たされていない建物なのか。というのが質問の一つ目。

次に今回、展示資料を移設することによって、現在の「石鳥谷歴史民俗資料館」という施設名称が変更になるのか。これが二つ目。

三つ目の質問として、この移設は一時的なものなのか、あるいは恒久的なものなのかお尋ねしたい。

(佐藤副館長)

一つ目の質問について、耐震改修促進法において、耐震診断を行って判断することになっているが、昭和56年以前の建築物なので耐震が満たされていないと推測されることから資料に記載したものである。

二つ目の質問「名称」について、施設は休館という扱いで、今後も保管・収蔵し、定期的に公開したいことから、名称変更はしない。

三つ目の質問については、今後検討していく。

(板垣武美委員)

現在の資料館のスペースはどうなるのか。

(佐藤副館長)

基本的には使用しない。

(菅原会長)

以上で、次第の3(2)石鳥谷歴史民俗資料館の展示資料の移設について終了いたします。

4 閉会

(佐藤地域振興課長)

以上をもちまして、令和5年度花巻市石鳥谷地域協議会第1回会議を閉会いたします。

委員の皆様、お疲れ様でございました。ありがとうございます。